

# 平成27年度補正予算の概要(消防庁関連)

## 総務課

平成27年度補正予算は、平成28年1月20日に政府案どおり成立しました。消防庁関連では、緊急消防援助隊の災害対応力の強化として6.9億円、消防団の装備・訓練の充実強化として1.1億円の計8.0億円を計上しています。本稿では、その概要について解説します。

### 1 緊急消防援助隊の災害対応力の強化

#### (1) 緊急消防援助隊の機動力の強化

頻発する風水害等の大規模災害に対処するため、特殊な車両・資機材を配備し、緊急消防援助隊の機動力の強化を図ることとして、4.7億円を計上しています。

- ① 津波や大規模風水害等における機動的な人命救助活動を可能とするため、走破性の高い水陸両用バギーや救助ボート等を搭載した「津波・大規模風水害対策車両」を3台配備するための経費として、2.3億円を計上しています。



- ② 大規模災害発生時、長期かつ大規模な部隊出動による消防応援活動が見込まれる被災地の前線において、大型エアータント（合計100人宿営可）の設置や温かい食事の提供、トイレ・シャワーの利用等を可能とする拠点機能を備えた特殊車両である「拠点機能形成車両」を2台配備するための経費として、2.4億円を計上しています。



#### (2) 緊急消防援助隊の情報収集能力の向上

大規模災害の発生時の緊急消防援助隊の出動に際し、早期に災害規模・状況を把握し、必要な緊急消防援助隊の規模や装備等を迅速に把握することを可能とするため、情報収集能力の向上を図ることとして、2.2億円を計上しています。

- ① 固定電話・携帯電話の発信制限や停電・被災等による消防救急無線の基地局の機能停止等、電波状況の悪い災害現場での迅速な通信を確保するため、災

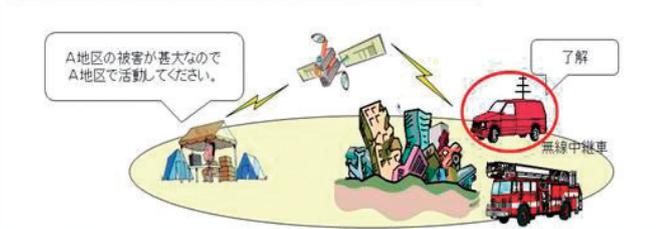
害に強い通信機能を備えた「無線中継車」を2台配備するための経費として、1.6億円を計上しています。



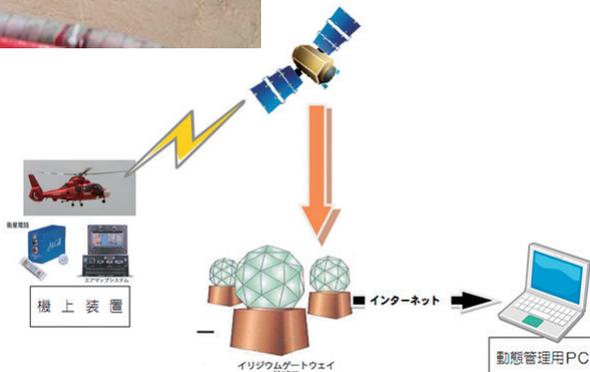
①無線中継機能を活用し、不感地帯での無線通信を確保。



②LASCOM衛星通信回線を利用し、電話及び無線通信を確保。



② 消防防災ヘリコプターの活動（飛行）位置をリアルタイムで把握する「ヘリコプター動態管理システム」を5セット配備するための経費として、0.6億円を計上しています。



## 2 消防団の装備・訓練の充実強化

大規模災害時は、現場状況の把握ができない中で、先着する消防団は、消火・救助（含む風水害）・応急処置等の多様な初動対応を行うことが求められます。そのため、消火・救助・応急処置に対応可能な救助資器材等を搭載した初動対応多機能車を風水害等の発生が危惧される地方公共団体に無償貸付けし、教育訓練を実施することにより、消防団の災害対応能力を向上させることとしており、「訓練・初動対応多機能自動車（冠水被害対応救助資器材搭載型消防ポンプ自動車）」を5台無償貸付けするための経費として、1.1億円を計上しています。

消防ポンプ自動車を使った緊急排水活動



使用資器材：消防ポンプ自動車  
消防用ホース 等

氾濫時の水防活動



使用資器材：救助工具（スコップ）、  
チェーンソー、ライフジャケット 等

ボートによる救出活動（写真は訓練時）



整備する車両・資器材のイメージ

【訓練・初動対応多機能自動車】  
【冠水被害対応救助資器材  
搭載型消防ポンプ自動車】



※ 消防ポンプ自動車及び消防ポンプ積載車をベースとし、消火・救助・冠水被害対応等の初動対応に必要な資器材も搭載



問い合わせ先

消防庁総務課会計第一係 阿部  
TEL: 03-5253-7506